

単元名

器械運動 「マット運動」

第2学年

1 単元の目標

- (1) 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うことができるようにする。
- ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることができるようになる。
- (2) 技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- (3) 器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなど、健康・安全に気を配ることができるようにする。

2 単元の評価規準

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ①技の行い方は技の課題を解決するための合理的な動き方のポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ②発表会には、学習の段階に応じたねらいや行い方があることについて、学習した具体例を挙げている。	○技能 ①全身を支えたり突き放したりするための着手の仕方、回転力を高めるための動き方、起き上がりやすくするための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして回転することができる。 ②開始姿勢や終末姿勢、組合せの動きや手の着き方などの条件を変えて回ることができる。 ③学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回ることができる。	①提供された練習方法から、自己の課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選んでいる。 ②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見つけている。 ③体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や発表を行う方法を見つけ、仲間に伝えている。	①練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ②一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。

3 器械運動（マット運動）における指導と評価の計画

		1	2	3	4	5	6 (本時)	7	8	9	10
学習の流れ	0	授業オリ【復習】 ・特性 ・技名 ・行い方 ・安全面 ・高まる体力 ・昨年度実績 ※1年時の学習カード ・学び方 ・社会性復習 ↓ 授業の見直し 目標設定	ストレッチ、補強運動、あいさつ、健康観察、用具の準備、ねらいや目標の確認、ミーティング 基礎技能練習（カエル倒立、頭倒立、補助倒立、ブリッジ、前転、後転）						ジグソー活動（組み合わせグループで） それぞれの技のエキスパートがグループ内の仲間に伝達する ↓ 技の組み合わせ つなぎの技の工夫 組み合わせた技の練習	自由練習	組み合わせた技の発表会
	50	学習カードへの記入 振り返り まとめ									
評価機会	知		(①)	(①)	①	②					
	技			①					②	③	
	思		(①)	①			(②)	②	(③)	③	
	態				②	(①)	①				
											総括的な評価

4 授業の展開と評価計画

	学習内容・活動	指導の方法及び評価規準
導入	1 ショートダッシュトレーニング 2 ストレッチ体操 3 あいさつ・出欠確認・健康観察 4 基礎技能練習 5 本時の学習目標の確認 目標：選択した技を仲間と協力しながら、様々な視点で研究できるエキスパート活動にしよう！	・集合後、集団トレーニングに取り組みさせる。 ・本時の学習内容を伝えるとともに、前回の授業を振り返らせ、課題や本時の見直しをもたせる。
	6 技グループによるエキスパート活動① ・配布した資料や、単元前半の学習カードを参考に、与えられた視点から選択した技について考えを深める。 ※「練習方法の工夫」 →場の工夫、道具の工夫、局面ごとの練習 ※「補助の工夫」 →補助の方法、声かけなどの協力、助け合い ・エキスパートメモに書き込む。	学習資料や実技動画、練習で使用できる道具等を準備する。 ◎考察の視点を教師側が明確にする。 ・「練習方法の工夫」 ・「補助の工夫」 ・活動のスタート状況を見極め、支援が必要なグループには声をかける。 ◎学習の成果をまとめさせる。 ・考えた練習方法などを実際に行う。 ・エキスパートメモをまとめる。 ●努力を要する状況への手立て ・単元前半の学習資料や、映像資料を提示し、ポイントのさらなる明確化を図る。 ・できている動きや生徒側から出てきた意見を褒め、尊重しながら活動を支援する。
	7 他の技グループとの情報共有 ・他のグループから実践方法を学び、自分のグループ活動に生かす。	

展開	8 技グループによるエキスパート活動② ・他のグループから学んだことを活かし、技グループ内での話し合い、実践をさらに深める。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 評価：練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 </div> 【観察】より評価を行う。 ○グループ活動の様子から、思②「仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見つけている。」について観察から予備評価し、本時の振り返りにて次時への課題を提示する。次時に思②を評価する。
まとめ	9 片付け、本時の振り返りと課題の設定 ・エキスパート活動で研究をした成果、仲間との活動で共有できた意見や仲間の挑戦、考え方を振り返る。 ・本時の成果と課題を発表する。 ・次時の学習内容を確認する。	・本時の目標から、仲間の挑戦や意見を共有しながら選択した技を研究したことについて、どのような考えを持ち取り組んだか学習カードの記入テーマに沿って振り返らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 評価：練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 </div> 【学習カード】より評価を行う。 ・本時の成果と課題を、まとめたものから数名発表させ、考えを共有させる。

5 単元の指導（授業改善及び評価について）

（1）観点別学習状況評価に関する考え方

単元途中の観点別学習状況の評価は、生徒の学習状況を明確にし、学習改善につなげると同時に、教師の指導の成果や課題を明らかにするものである。このことから、評価は単元の終末にまとめて行うものとして、指導場面に対して評価の機会を設定していくよう計画を立てた。また、特に努力を要する状況（C）の生徒に対して手立てを講じることが重要であり、評価した結果を具体的な言葉で学習の改善を促したり、指導の手立てを修正したりするなど、評価を指導に生かせるようにした。併せて、十分満足できる状況（A）の生徒の把握にも努め、個別の課題を与えるなどの指導も大切となる。本単元では、適切な評価時期に、各観点に対応する適切な評価方法により個々の生徒の評価材料を収集し、必要な手立てや指導を行い、必要に応じて形成的な評価をしながら、総括的な評価において最終確認し、観点別学習状況の評価を確定する計画を立てた。各観点における観点別学習状況の評価を5段階（A^o、A、B、C、C[△]）で評価し、評定への総括に備えることとした。数値化するときにはA^oを5、Aを4、Bを3、Cを2、C[△]を1と設定した。

（2）カリキュラムマネジメントの視点から考える「主体的に学習に取り組む態度」 **ポイント 3**

器械運動に関わる学習だけではなく、既習の「スポーツと社会性」（2年体育理論）から、スポーツを行う上でのマナー、仲間を尊重するスポーツマンシップ、それぞれの役割分担の中で協力し合うチームワークの考え方をオリエンテーションで確認した。既習の考え方を本単元に当てはめ、「授業約束4ヶ条」を設定し、主体的に学習に取り組む態度について、自己評価ができるようにした。4つの約束は、「マナーの徹底」「仲間の意見を認め、受け入れる」「自分の意見を積極的に伝える」「全力で授業に臨む」と設定し、毎時間の活動に合わせた自己評価を行った。6時間目においては、エキスパート活動にて、2つの視点から技の研究に取り組む姿勢、特に、お互いの意見や考えを尊重しながら、協力し合い学習を進めている場面を評価した。また、オリエンテーションでの学習や前時での予備評価を踏まえ、学習を進める上でのマナーやスポーツマンシップ、チームワークに関する記述を取り上げ、評価した。



次に評価基準の実現状況を判断する目安と記述状況の例を挙げる。

実現状況	判断の目安（観察）	学習カード記述の状況
十分満足 (A°)	自他の意見を積極的に共有しながら、互いに助け合い、学びを実践へとつなげている。また、その考えを修正しようとするなど、さらに学びが深まっている。	場面に応じた適切な内容が、学習の振り返りのもと記述され、さらに、マナーやスポーツマンシップ、チームワークに関する考え方が、自分の行動と結びついた記述となっている。
十分満足 (A)	自他の意見を積極的に共有しながら、互いに助け合い、学びを実践へとつなげている。	場面に応じた適切な内容が、学習の振り返りのもと記述され、さらに具体的に記述されている。
おおむね満足 (B)	自他の意見を共有しながら、互いに助け合い活動している。	場面に対応した適切な内容が、学習の振り返りのもと記述されている。
努力を要する (C)	仲間の意見を取り入れ学習を進めているが、自分の意見が少なく、仲間に助言ができていない。	場面に対応した内容が不足しており、具体的な記述が少なく、授業の感想に近い記述がされている。
努力を要する (C△)	自他の意見共有や認め合う場面がなく、グループ学習を進めることができない。	場面に対応した記述がない。

(3) 「エキスパート活動」と「ジグソー活動」を取り入れた指導と評価の工夫



ポイント 3

単元最後に組合せ技を発表する見通しをもち、後半の学習をスタートさせた。組合せも教師が指定し、組合せのパターンを習得度別に4つに分け、自らの習得状況や課題意識に合わせて選択できるようにした。組合せ技を習得していく学習過程では、課題に対する基本的な知識と技能や、学習した合理的ポイントを活用し、生徒それぞれの観点から解決方法を思考し、より深い学びにつなげるよう計画を立てた。その中で、「エキスパート活動」と「ジグソー活動」を取り入れ、思考力、判断力、表現力等における、仲間の習得段階から判断した練習方法や補助方法の選択場面や、課題解決に向けた教え合い、与えられた役割に対する取り組み方、挑戦に対する認め合いの場面を評価した。

「エキスパート活動」とは、同じ組合せ技に分かれたグループ内で、それぞれが担当する技を1つ選択し、担当する技グループを再編成して合理的なポイントを明確にすることや、補助の方法や練習場の工夫、習得段階に合わせた練習方法など、エキスパートとして研究していく活動を指す。主体的に学習を進める中で、これまでに習得した知識や技能を、どう活用していくのかを確認すると共に、出てきた意見を共有したり、仲間の挑戦を認めたりする態度を評価し、指導に還元するようにした。また、「スポーツを行う上でのマナー」、「スポーツマンシップ」、「チームワーク」など、既習の考え方を学習の中にどう表現していくのかを、観察や学習カードへの記述により評価し、学びに向かう力、人間性等における、協力、参画、共生などの態度を、自らのスポーツライフにつなげていくよう指導した。

「ジグソー活動」とは、エキスパート活動を終えたメンバーが組合せ技のグループに戻り、それぞれが研究してきたことを仲間に伝えながら、技を組み合わせる活動をする。エキスパート活動を終えた生徒が、それぞれの練習をする場面で指導者となり活動をした。マット運動が得意な生徒だけがリーダーシップを発揮するのではなく、多くの生徒がリーダーとして精一杯練習を運営する姿が見て取れた。様々な意見や練習方法を受け入れ、マット運動が苦手な生徒も、しっかりと意見を言える雰囲気を全体で作ることができ、大きな成果となった。

